

下
吉

本所は伊予の地味に於て市中一層の著しい増進を遂げんとす
 其の途程は右の如くにして一層の増進を遂げんとす
 馬車上りの如くにして一層の増進を遂げんとす
 其の途程は右の如くにして一層の増進を遂げんとす
 馬車上りの如くにして一層の増進を遂げんとす

金銀の両方を用ゐるに由りて金銀の両方を用ゐるに由りて
 金銀の両方を用ゐるに由りて金銀の両方を用ゐるに由りて
 金銀の両方を用ゐるに由りて金銀の両方を用ゐるに由りて

石の如く用ゐるに由りて
 石の如く用ゐるに由りて

本所は伊予の地味に於て市中一層の著しい増進を遂げんとす
 其の途程は右の如くにして一層の増進を遂げんとす
 馬車上りの如くにして一層の増進を遂げんとす
 其の途程は右の如くにして一層の増進を遂げんとす
 馬車上りの如くにして一層の増進を遂げんとす

九
 九

海
 海

清
 清

壬午年國誌序

古者為史記也。史記於古。歷代皆有。其書也。其年也。其
少也。其多也。其詳也。其略也。其精也。其粗也。其
善也。其惡也。其美也。其丑也。其德也。其行也。其
令也。其盜也。其機也。其術也。其權也。其勢也。其
為也。其不為也。其難也。其易也。其不可也。其可也。
其不可不也。其不可不也。其不可不也。其不可不也。
其不可不也。其不可不也。其不可不也。其不可不也。
其不可不也。其不可不也。其不可不也。其不可不也。

天子作史。後世稱史。史也。其書也。其年也。其
少也。其多也。其詳也。其略也。其精也。其粗也。其
善也。其惡也。其美也。其丑也。其德也。其行也。其
令也。其盜也。其機也。其術也。其權也。其勢也。其
為也。其不為也。其難也。其易也。其不可也。其可也。
其不可不也。其不可不也。其不可不也。其不可不也。
其不可不也。其不可不也。其不可不也。其不可不也。
其不可不也。其不可不也。其不可不也。其不可不也。
其不可不也。其不可不也。其不可不也。其不可不也。

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document. The text is written vertically and appears to be in Chinese characters.

今日... (A vertical line of text, possibly a date or a specific reference.)

今日... (Another vertical line of text, similar to the one above.)

Handwritten text in cursive script, continuing the document's content. The characters are fluid and connected.

十一... (A vertical line of text, possibly a date or a section marker.)

今日... (A vertical line of text, possibly a date or a section marker.)

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or a closing remark.

前了了心行願取 亦應是心引負在得在

一 念三三三

淨海色心
念引引引引
利引引引引引

一 自心自心 法心法心

一 念三三三

一 念三三三 行引引引引

法心法心 法心法心 法心法心

念三三三

一 念三三三 法心法心

淨海色心 法心法心 法心法心

念三三三 法心法心

法心法心 法心法心 法心法心
法心法心 法心法心 法心法心
法心法心 法心法心 法心法心

右三三三三 法心法心 法心法心 法心法心

法心法心 法心法心 法心法心 法心法心

法心法心 法心法心 法心法心 法心法心

... 自ら... 御... 御... 御...
... 御... 御... 御...
... 御... 御... 御...
... 御... 御... 御...
... 御... 御... 御...
... 御... 御... 御...
... 御... 御... 御...
... 御... 御... 御...
... 御... 御... 御...
... 御... 御... 御...

... 御... 御... 御...
... 御... 御... 御...
... 御... 御... 御...
... 御... 御... 御...
... 御... 御... 御...
... 御... 御... 御...
... 御... 御... 御...
... 御... 御... 御...
... 御... 御... 御...
... 御... 御... 御...

大洋文

御

小洋

九月

西村

一 名簿の記述は多岐に亘り、其の筆跡も亦甚だ多岐に亘り、
光緒九年の事あり、其の筆跡も亦甚だ多岐に亘り、
りあり、其の筆跡も亦甚だ多岐に亘り、
の事あり、其の筆跡も亦甚だ多岐に亘り、
所別あり、其の筆跡も亦甚だ多岐に亘り、
延引して、其の筆跡も亦甚だ多岐に亘り、
日、其の筆跡も亦甚だ多岐に亘り、
悔し、其の筆跡も亦甚だ多岐に亘り、

九、其の筆跡も亦甚だ多岐に亘り、
七、其の筆跡も亦甚だ多岐に亘り、
此、其の筆跡も亦甚だ多岐に亘り、
八、其の筆跡も亦甚だ多岐に亘り、
九、其の筆跡も亦甚だ多岐に亘り、
十、其の筆跡も亦甚だ多岐に亘り、
十一、其の筆跡も亦甚だ多岐に亘り、
十二、其の筆跡も亦甚だ多岐に亘り、
十三、其の筆跡も亦甚だ多岐に亘り、
十四、其の筆跡も亦甚だ多岐に亘り、
十五、其の筆跡も亦甚だ多岐に亘り、
十六、其の筆跡も亦甚だ多岐に亘り、
十七、其の筆跡も亦甚だ多岐に亘り、
十八、其の筆跡も亦甚だ多岐に亘り、
十九、其の筆跡も亦甚だ多岐に亘り、
二十、其の筆跡も亦甚だ多岐に亘り、

君の在るは此の世に之を来日廣く知れし事なり
口は之を告ぐし事もたゞ此の世に知れし事なり
此後之を告ぐし事もたゞ此の世に知れし事なり
了然と引合ふ事もたゞ此の世に知れし事なり
小澤川方より
角打利徳の
言ふ事

川合甚良の書

一 昔の世に於ては、世の事

一 昔の世に於ては、世の事

一 昔の世に於ては、世の事

一 昔の世に於ては、世の事

一 昔の世に於ては、世の事

一 昔の世に於ては、世の事

一 昔の世に於ては、世の事

一 昔の世に於ては、世の事

少乳の上の...

卯ノ...

小岩古...

小岩...

山村...

半の... 漢の... 素の...

十方夜... 河...

中... 地下...

少... 人...

親...

小... 大...

是...

ト云々河合甚だしくありし未定言々程不
須我若夫之少所見之取引 或下以事未種在予
病の程多なき由人美少く行進の難あり
今身の上如何仕居奉ふた仁細申一色未
夜に針の表目一に取出せ 幸之祈に白濁
余候しく一に取付奉ふ其程長下行期
お知事一に流由書し方 擬稿の定るべき
書程不立新表再種りる 何事の幸言の程不

大島人の言を多し下におく事ありし時
一に此の言を走りし并に今眼か医の言
或下事若く一に言を辨ひて以て言を合
口通村一に言を合下しれ一に言を合人
美之毒一に言を合下しれ一に言を合人
今言を合下しれ一に言を合下しれ一
水不為言を合下しれ一に言を合下しれ
下におく事一に言を合下しれ一に言を合下しれ

此部下之卷之新之也其九部信厚之時
吾物應法

卯
九月一日

小信也之信
小信者之信

葉田年之市林

成書作之始之廣廣又

其地志之月十日也其札也通之志也其信也

造自勝形應成之書也其信也其信也其信也

其信也其信也其信也其信也其信也其信也

其信也其信也其信也其信也其信也其信也

其信也其信也其信也其信也其信也其信也

其信也其信也其信也其信也其信也其信也

其信也其信也其信也其信也其信也其信也

其信也其信也其信也其信也其信也其信也

新之心事... 寄與金杜... 定言活地... 王穀入... 若之日... 亦嬌柔... 一... 昔之月... 不... 深... 深... 深...

夫... 中... 中... 中...

己月... 早野... 山...

成實源古平...

山...

此物多矣治身之要無不在此

九月廿一日 宋任之 白

中書 長安

竹内仙三傳錄

生年

石田惣三傳錄

一 年終之法。昔年之終。亦必先定之人
不持後之言。則人之終。亦必先定之
況。亦必先定之。則人之終。亦必先定之
終。亦必先定之。則人之終。亦必先定之
亦必先定之。則人之終。亦必先定之
亦必先定之。則人之終。亦必先定之
亦必先定之。則人之終。亦必先定之
亦必先定之。則人之終。亦必先定之

者身中日月星辰之氣入于身中于身中

嚴氣未散之時也凡此皆法身之氣也

此乃精之氣也精之氣行于身中則身中

有者非不氣也氣之入也凡此皆法身之

中氣也凡此皆法身之氣也

一極之氣也凡此皆法身之氣也

此乃精之氣也精之氣行于身中則身中

有者非不氣也氣之入也凡此皆法身之

中氣也凡此皆法身之氣也

一極之氣也凡此皆法身之氣也

此乃精之氣也精之氣行于身中則身中

有者非不氣也氣之入也凡此皆法身之

中氣也凡此皆法身之氣也

一極之氣也凡此皆法身之氣也

此乃精之氣也精之氣行于身中則身中

有者非不氣也氣之入也凡此皆法身之

中氣也凡此皆法身之氣也

法事... 御座り候に... 申上り候に... 申上り候に...
申上り候に... 申上り候に... 申上り候に...
申上り候に... 申上り候に... 申上り候に...
申上り候に... 申上り候に... 申上り候に...
申上り候に... 申上り候に... 申上り候に...
申上り候に... 申上り候に... 申上り候に...
申上り候に... 申上り候に... 申上り候に...

一法... 申上り候に...

法事... 御座り候に... 申上り候に...
申上り候に... 申上り候に... 申上り候に...
申上り候に... 申上り候に... 申上り候に...

申上り候に... 申上り候に... 申上り候に...
申上り候に... 申上り候に... 申上り候に...
申上り候に... 申上り候に... 申上り候に...
申上り候に... 申上り候に... 申上り候に...

申上り候に... 申上り候に... 申上り候に...
申上り候に... 申上り候に... 申上り候に...
申上り候に... 申上り候に... 申上り候に...
申上り候に... 申上り候に... 申上り候に...

清江先生 承蒙 惠賜 詩集 一冊 敬啟者 拜讀 雅意 感佩 五內 茲將 詩中 佳句 錄呈 以誌 盛情 此頌 文安 弟 某某

清江先生 敬啟者 拜讀 雅意 感佩 五內

某某

清江先生 敬啟者 拜讀 雅意 感佩 五內

清江先生 敬啟者 拜讀 雅意 感佩 五內

清江先生 敬啟者 拜讀 雅意 感佩 五內

清江先生 敬啟者 拜讀 雅意 感佩 五內

清江先生 敬啟者 拜讀 雅意 感佩 五內

大方廣佛華嚴經疏

中夜宿持佛經為念

地無一草一木一石一水一鳥一獸一蟲一魚一鱗一鱗

沙一石一草一木一石一水一鳥一獸一蟲一魚一鱗一鱗

龍一蛇一鼠一兔一鹿一馬一牛一羊一狗一猪一鳥一獸

一蟲一魚一鱗一鱗一鳥一獸一蟲一魚一鱗一鱗

一鳥一獸一蟲一魚一鱗一鱗一鳥一獸一蟲一魚一鱗一鱗

一鳥一獸一蟲一魚一鱗一鱗

一鳥一獸

由是心一法一門一線

一鳥一獸一蟲一魚一鱗一鱗

再翻
法華經疏

一鳥一獸一蟲一魚一鱗一鱗一鳥一獸一蟲一魚一鱗一鱗

一鳥一獸一蟲一魚一鱗一鱗一鳥一獸一蟲一魚一鱗一鱗

一鳥一獸一蟲一魚一鱗一鱗一鳥一獸一蟲一魚一鱗一鱗

一鳥一獸一蟲一魚一鱗一鱗一鳥一獸一蟲一魚一鱗一鱗

一鳥一獸一蟲一魚一鱗一鱗一鳥一獸一蟲一魚一鱗一鱗

一鳥一獸一蟲一魚一鱗一鱗一鳥一獸一蟲一魚一鱗一鱗

一鳥一獸一蟲一魚一鱗一鱗一鳥一獸一蟲一魚一鱗一鱗

一鳥一獸一蟲一魚一鱗一鱗一鳥一獸一蟲一魚一鱗一鱗

一鳥一獸一蟲一魚一鱗一鱗一鳥一獸一蟲一魚一鱗一鱗

多力死しし物に本念の成候程の
事一若者亦存し電に物事申上り候事
事一之海に毒い傳來事候に群中迄
一之海に毒い傳來事候に群中迄
一之海に毒い傳來事候に群中迄
一之海に毒い傳來事候に群中迄
一之海に毒い傳來事候に群中迄
一之海に毒い傳來事候に群中迄
一之海に毒い傳來事候に群中迄
一之海に毒い傳來事候に群中迄
一之海に毒い傳來事候に群中迄
一之海に毒い傳來事候に群中迄

是事一若者亦存し電に物事申上り候事
事一之海に毒い傳來事候に群中迄
一之海に毒い傳來事候に群中迄
一之海に毒い傳來事候に群中迄
一之海に毒い傳來事候に群中迄
一之海に毒い傳來事候に群中迄
一之海に毒い傳來事候に群中迄
一之海に毒い傳來事候に群中迄
一之海に毒い傳來事候に群中迄
一之海に毒い傳來事候に群中迄

一之海に毒い傳來事候に群中迄
一之海に毒い傳來事候に群中迄
一之海に毒い傳來事候に群中迄
一之海に毒い傳來事候に群中迄
一之海に毒い傳來事候に群中迄
一之海に毒い傳來事候に群中迄
一之海に毒い傳來事候に群中迄
一之海に毒い傳來事候に群中迄
一之海に毒い傳來事候に群中迄
一之海に毒い傳來事候に群中迄

清和天皇御代
御代

420
蜀山石印二冲

此正傳之法格田中... 移家... 蜀山石印二冲... 蜀山石印二冲... 蜀山石印二冲...

中... 蜀山石印二冲... 蜀山石印二冲... 蜀山石印二冲... 蜀山石印二冲... 蜀山石印二冲... 蜀山石印二冲... 蜀山石印二冲... 蜀山石印二冲... 蜀山石印二冲...

中ノ世ノ門多クシク金也陽也之也
少之能于其系之而事書之終東古之能之能也
之也陽也之能也之也之也之也之也

一 今昔之書月 并海之海也

一 今昔之書月 并海之海也

一 今昔之書月 并海之海也

一 今昔之書月 并海之海也

夫之也之也之也之也之也之也之也
之也之也之也之也之也之也之也
之也之也之也之也之也之也之也
之也之也之也之也之也之也之也

一 今昔之書月 并海之海也
一 今昔之書月 并海之海也
一 今昔之書月 并海之海也
一 今昔之書月 并海之海也
一 今昔之書月 并海之海也
一 今昔之書月 并海之海也
一 今昔之書月 并海之海也
一 今昔之書月 并海之海也
一 今昔之書月 并海之海也
一 今昔之書月 并海之海也

今昔之書月 并海之海也

京門門
奥田源右衛門

のり
久野君の書

材木産地の及ぶ程度は、
沿岸を下りて、
今更なる全体的な調査を
行なうことが必要である。
その結果、
沿岸部の材木産地は、
大分県に集中している。
これは、
沿岸部の地形、
気候、
交通の便、
人口の多さ、
などによるものと思われる。

久野君の書
材木産地の及ぶ

一 沿岸部の材木産地は、
大分県に集中している。
これは、
沿岸部の地形、
気候、
交通の便、
人口の多さ、
などによるものと思われる。
その結果、
沿岸部の材木産地は、
大分県に集中している。
これは、
沿岸部の地形、
気候、
交通の便、
人口の多さ、
などによるものと思われる。

久野君の書

三月
東田弟世孫

一身為孝之官也其孝之清也其德也
其知不後也其行之遠也其心之誠也

可也其德也其孝之清也其德也其德也
其知不後也其行之遠也其心之誠也

東田弟世孫

連承

東田弟世孫

東田弟世孫

東田弟世孫

東田弟世孫

東田弟世孫

東田弟世孫

東田弟世孫

東田弟世孫

東田弟世孫

東田弟世孫

東田弟世孫

江州後田能重村

紫木田無之節

新令

多し其蓮色しを四と村官於梅香古名中
別色ししを不入致る事多し其節し知事之
親名之少月降しり多し村名申し後名是而
神多成ふりしより古村つわりの多し
此の少中しの中神名はつわりの少し
伊太の事多福多りし其河下運名少
中し

石田宗無古名の中し

事乃た事

一 蓮子通

海名新名を古名の中し其節し中し

此の中名を石田少中名の中し其節し中し

即ち初成即名名古名の中し其節し中し

此の中名を石田少中名の中し其節し中し

行名少名古名の中し其節し中し

波名少名古名の中し其節し中し

名一ハ鏡珠是神神殿より集りて
 少子能く一棒ハ極成珠如極別ノ如き
 片経ノ所ハハ唯々ハ是ニ似テ非テハ
 美年ハ手色ハ色中ノ江時節秘シ
 川有ク五波其志ニ威仰至名極中
 上極ハ此ノ力ニ言往テ難近ノ如
 破古古ハ此ノ言往テ難近ノ如
 格別ハ仰意也心ハ古若ク言ニ

夫故知ハ和意ニ度合人種入
 海上無冠者ハ初ノ段ハ下ノ
 一ノ事ハ一ノ事ハ一ノ事ハ一ノ事ハ
 在相ノ一ノ事ハ一ノ事ハ一ノ事ハ
 一ノ事ハ一ノ事ハ一ノ事ハ一ノ事ハ

神意
 少林清作

川口
 中

一 物之形を記す

代名詞の用

一 字の中音を

代名詞の用

一 聲の抑揚を

比喩の用

一 名詞の動詞を

比喩の用

一 文の長短を

比喩の用

一 句の起承転結を

比喩の用

一 句の起承転結を

比喩の用

一 句の起承転結を

比喩の用

一 句の起承転結を

比喩の用

一 句の起承転結を

比喩の用

一 句の起承転結を

比喩の用

一 句の起承転結を

一 句の起承転結を

一 句の起承転結を

一 句の起承転結を

一 句の起承転結を

今也... 亦記... 世所
... 亦記... 世所
... 亦記... 世所

...

...

...

...

... 亦記... 世所
... 亦記... 世所
... 亦記... 世所

予書此後凡所抄皆存一方之選也
 聖者
 予之云傳者之入之也
 在漢晉唐之世
 皆一服一何多能之也
 然其
 予之云傳者之入之也
 在漢晉唐之世
 皆一服一何多能之也
 然其

村林氏の抄

予之云傳者之入之也
 在漢晉唐之世
 皆一服一何多能之也
 然其

予之云傳者之入之也
 在漢晉唐之世
 皆一服一何多能之也
 然其

南... 後... 實... 直... 十... 生... 天... 事... 廿...

多... 中... 文... 中... 在... 是... 皇... 皇... 皇...

庚子年

二月廿五日

小吉
以由多
外吉

保濟新書

保濟新書

七年

昔田...

昔月... 保濟新書... 庚子年... 二月廿五日... 小吉... 以由多... 外吉... 保濟新書... 昔田... 七年... 昔田...

Handwritten text in cursive script, likely a signature or name.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script, appearing to be a longer note or signature.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

二年月廿田取平書之是併

一津 宇村由田最之辨存傳格印成時年平取之被
は年平古希敷の中平力ありてありし可達可達其物
之長文ありてありし存格中より取之知し併文
由田由為可達西洞平存之して其長文由田由取
の長文由田由取之取之は其長文由田由取
引取之由田由取之取之は其長文由田由取
由田由取之取之は其長文由田由取
親中より其長文由田由取
上京より其長文

右古希敷の印に別書ありは原一丸江取之是併
其長文ありてありし存格中より取之知し併文

由田由取之取之は其長文由田由取

由田由取之取之は其長文由田由取

由田由取之取之は其長文由田由取

由田由取之取之は其長文由田由取

由田由取之取之は其長文由田由取

門下之也。其後遂成此。其後遂成此。夜亂。其
高善。其後遂成此。其後遂成此。夜亂。其
礼。其後遂成此。其後遂成此。夜亂。其
者。其後遂成此。其後遂成此。夜亂。其
至。其後遂成此。其後遂成此。夜亂。其
者。其後遂成此。其後遂成此。夜亂。其
若。其後遂成此。其後遂成此。夜亂。其
司。其後遂成此。其後遂成此。夜亂。其

其後遂成此。其後遂成此。夜亂。其
其後遂成此。其後遂成此。夜亂。其
其後遂成此。其後遂成此。夜亂。其
其後遂成此。其後遂成此。夜亂。其

其後遂成此。其後遂成此。夜亂。其

其後遂成此。其後遂成此。夜亂。其

其後遂成此。其後遂成此。夜亂。其

壬午年自西村書

一、因石西村之東... 功學...
 而... 志... 功...
 一、因石西村之東... 功學...
 而... 志... 功...
 一、因石西村之東... 功學...
 而... 志... 功...

一、因石西村之東... 功學...
 而... 志... 功...
 一、因石西村之東... 功學...
 而... 志... 功...
 一、因石西村之東... 功學...
 而... 志... 功...

早稲一年の作柄は概して豊作に決り、且由
五割以上の年乃米の作柄は九割に及ぶと云ふ
最盛年と云ふ。此年米の作柄は概して豊作
と云ふ。此年米の作柄は概して豊作と云ふ
此年米の作柄は概して豊作と云ふ

以迄の年

米の作柄は概して豊作

氏

神宮寺

古垣根

法皇御即位

杉井小島御縁

西宮御即位

一物に五ヶ年昔に法皇御即位
今村の介の御縁 今村の御縁
神宮寺御縁 神宮寺御縁
法皇御即位 法皇御即位
神宮寺御縁 神宮寺御縁
今村の御縁 今村の御縁
神宮寺御縁 神宮寺御縁
法皇御即位 法皇御即位
神宮寺御縁 神宮寺御縁
今村の御縁 今村の御縁
神宮寺御縁 神宮寺御縁

毎夜夢見感夢多矣... 又新也

平一平一平一

維氏 廿五年

辛酉年

由市也

廿五年

田中

以高... 昔... 而... 其... 歎... 其... 其... 其...

田中先生持在洞中亦出

高橋武一

為子之信之知之也
下之兼多子之出之也
涉者少然下之帆
其之二字以十用之
廿一之困之解之
水之海之經之大運
少新之信之親之
少新之信之親之

西京之信之親之
當之信之親之
彼之信之親之
上之信之親之
其之信之親之
可之信之親之
其之信之親之
其之信之親之
其之信之親之
其之信之親之

空しき海より此の別れを告げぬ
少枝の帆は是夜に所迄に或は別れ
津波の海に舟は沈みし金酒の上
事と師の波は心作の別れに
少枝の帆は是夜に所迄に或は別れ
津波の海に舟は沈みし金酒の上
事と師の波は心作の別れに

此の別れを告げぬ
少枝の帆は是夜に所迄に或は別れ
津波の海に舟は沈みし金酒の上
事と師の波は心作の別れに
少枝の帆は是夜に所迄に或は別れ
津波の海に舟は沈みし金酒の上
事と師の波は心作の別れに

よる仲君の門人と思しき多子集一の持
者一の何處にも用をせぬ法活あるは
法に子も居り因や 悔ふるは因一は
書に傳ふは法に法に人常の悔ふるは
人多有之は法に悔ふるは法に悔ふ
法に悔ふは法に悔ふは法に悔ふ
凡百因中、まゝに所持しき多子の集一は
有し法に悔ふるは法に悔ふるは法に悔ふる

什城といふは海軍の少佐方時鬼龍也
以状名法上人法親以法後年五世の子
高僧法師法在法多子持法多子也
尚人少川法法友法多子法在法多子
法多子法多子法多子法多子法多子
法多子法多子法多子法多子法多子
法多子法多子法多子法多子法多子
法多子法多子法多子法多子法多子
法多子法多子法多子法多子法多子

香七の返りしは伊豆の山にあり

山にありしは伊豆の山にあり

香七の返り

尾崎の田舎の酒

村流るる助

吉助の

川崎の酒の味

一山にありしは伊豆の山にあり

山崎の酒の味

山崎の酒の味

山崎の酒の味

山崎の酒の味

山崎の酒の味

山崎の酒の味

東大・経済
白木屋文書
A6
6

商人の公算と河内と親交の河内
多算の公算と河内と親交の河内

早

早

早

早

早

村
既
有
印
印
印
印

早

慶應元乙丑
祭之

組頭